

活動報告

第13回厚生連産婦人科医会記録

開催日時 平成18年7月8日(土) 午後4時～午後6時30分
場 所 ホテル新潟 4階 『妙高の間』
会 員 数 厚生連10病院23名(別紙名簿による)
出席会員 12名(別紙名簿による)
本 部 加藤人事部長(但し、土屋副部長は都合により欠席)
担当病院 清水事務長・笠井総務課長

司会進行 三条総合病院 永田 寛先生

○開会

○医会会計報告・・・永田先生別紙資料により報告・承認される。

○各病院からの現況報告・・・別紙資料に基づき各病院より報告を受ける

<主な質疑>

- ・ 助産師の深夜の拘束体制は危険ではないのか(三条へ)
- ・ 里帰り分娩が減少している。原因は特定できない。現在ホームページの充実等検討(佐渡)
- ・ 分娩数の微増は周辺病院対策として、入院期間の短縮、妊婦健診料の値下げ等で負担を軽減した効果か(村上)
- ・ 厚生連の分娩に係る費用については検討する必要がある。
- ・ 臨床研修のプログラムについては科の順番は病院で変更可(刈羽へ)
- ・ NICUの稼働については小児科医師数、スタッフ不足等の問題がある(上越)

○田中教授より挨拶(本日、大学にて臨床研修医師のガイダンス出席により本会出席は遅れる。)

本日研修医師のガイダンスに出席した。産婦人科への入局の状況は厳しい。産婦人科の医師数は全国的に減少している。原因としては長く不規則な勤務、医療訴訟等が考えられる。今後の対策としては施設の統廃合、医師の集約化、勤務医の待遇改善、収入対策、訴訟対応、無過失補償制度等の確立が考えられる。集約化については3名から4名でゆとりのある体制が望まれる。皆様も厚生連として検討され、魅力ある職場作りに尽力していただきたい。ひいてはそれが住民のためになると考える。

○産婦人科医師の業務の現状と問題点について・・・永田先生より事前アンケートの結果等、待遇改善案を別紙資料により説明する。尚、アンケート数は会員23名中19名より回答を得た。

<主な質疑>

- ・ エコーは時間外加算の対象となる。
- ・ 婦人科拘束料の新設に検討が必要
- ・ 4週8休の取得が出来ない。時間外手当での支給は
※人事部長より法的にはできない。年間での労働時間設定のなかで取得ができるか等も検討
- ・ 個人当て訴訟については本会是对応しないのか
※人事部長より明らかな個人の過失に基づくものであれば別だが、通常の業務の中で発生したものであれば対応するのでは。
- ・ 病院により業務内容が一律ではない。又他の科との係わり合いもあり待遇改善は難しい面もある。

○その他

- ・ 田中教授より糸魚川病院の件について厚生連内での検討につき御発言がある。